

2013年9月1日
(有)アウル出版企画
代表 川村史記



**本の出版において重要なのは出版社のブランドではなく、
“本の中身（何が書いてあるか）”である”と考えます。**

自分の書いた原稿を、企業の大小にかかわらず、何社かの出版社に持ち込めば、なんとか書籍化できた時代は遠い昔のことで、最近では著述業をしていますが、一冊の本を書籍化することは容易なことではありません。その原因は出版社の困窮です。具体的には、若者を筆頭に人々が本を読まないことが、出版社の売れ行きを凋落させたといわれていますが、もっと大きな原因は、産業技術の変革の中で、ITという言葉に象徴されるデジタル技術機軸の情報発信革命へ、出版社が乗り遅れたことが最大の原因でしょう。そこで、出版業界も電子書籍などという手法を注視し始めています。これは専用の携帯ディスプレイ画面で、書籍をめくるような感覚で画面をスキャンしつつ読み進むという手法ですから、新し物好きな若い世代は結構活用しているようです。

しかし、私のような書籍全盛の時代に学生時代を過ごした者にとって、知識導入の主役であった書籍の利便性は他に替えがたいものです。例えば、内容は高度、価格は安価な文庫本に代表されるように、ポケットにつっこんだりして持ち運び、いろいろな場所（寝床、便所、風呂場、車内等々）に持ち込んで読み、鉛筆で自在に印をつけたり、葉代わりにページの端を折っておいたりしながら、ページを読み進んでいくという、好き勝手ができる“アナログ手法の読書体験”はその紙をめくる感触とともに、人生そのもののページをめくってゆく道筋、さらには人間形成そのものに大きな役割を果たしてくれました。

その筆者が出版業界のこのような現状を嘆いてばかりでなにもしないというのでは、書籍文化に申し訳が立ちません。確かに、今日は自費出版という手法もあり、出版業界に依存しない作品発表は可能ですが、これにはあきれられるほどお金がかかります（なぜそんなにお金がかかるのかは、出版社の言い分次第の説明で煙にまかれます）。では、出版社から相手にされず（今の教育図書は、現体制の批判を好みませんからそのようなことがよくあります）お金も潤沢に用意できなければ書き手はいつもなにもできないのでしょうか？？？あるいは出版社の担当者のいうがままに、内容を書き換えるほかないのでしょうか。ノン！ノン！もちろんそんなことはありません。今日は誰もが机の上にパソコンとプリンタを備えていますから、デスクトップパブリッシングは可能です。とりわけ、筆者のような“スローライフ”を標榜している書き手は、このような時代だからこそ『なんと、スローな、コストパフォーマンスの悪い手づくり出版技術に拘る』必要があるようにさえ思えます。むしろ、近い将来は印刷所と製本所を経由した刷り物に仕立て上げるにせよ、当面は、一つの反骨として、『手づくりに拘る』取り組みをしてみるのも面白いではありません。

そこで、ここに『ふくろう手づくり新書』という筆者だけのブランドを立ち上げ、最近の出版社からは書籍化するのが難しい現教育批判の書を『ふくろう手づくり新書』とし、新たな教育改革への提案も含めた内容でハンドメイドし、数売ることではなく、より多くの皆さんに読んでいただくことを目標に、コツコツと作業を続けたいと思います。ふくろう手づくり新書の第一弾は“『演の力』を再び - 学校教育の活性化に向けて 著者 川村史記 監修者 福島 康 - ”です。

『演の力』を再び 学校教育の活性化に向けて

著者 川村史記 / 監修者 福島 康

目次

はじめに

【第1章】子どもの頃、確かに演劇と出会った！

- 1-1 時代の風景
- 1-2 小学校中学年での演劇体験
 - (1) 学校劇にミュージカルが登場
 - (2) 体験から考える“学校劇の課題”
- 1-3 学校劇の再生に向けて

【第2章】学校は演劇が嫌い

- 2-1 諸外国における教育と演劇
 - (1) フランス（老若男女の演劇同好会）
 - (2) イギリス
 - (3) ドイツ
 - (4) イタリア
- 2-2 最近の学芸会と教師
 - [事例 1]
 - [事例 2]
 - [事例 3]
 - [事例 4]

【第3章】注目したい演劇教育の実践

- 3-1 小規模小学校の大きな取り組み
教育現場をよく知ったプロとの関係
- 3-2 子ども達は家庭と学校と地域社会の連帯の中で育つ

【第4章】演劇教育の裏方達

- 4-1 イギリスの演劇教育
 - (1) 演劇教育をサポートする人々
 - (2) 演ずる行為は学習の最も有効な手段
- 4-2 シュタイナー学校
シュタイナーの演劇教育
- 4-3 日本の演劇教育サポーター
 - (1) オルグ活動の実態
 - オルグ事例（その1）
 - オルグ事例（その2）

(2)オルグの専門家を育てる努力

【第5章】総合学的学習手法としての演劇教育

- 5-1 有名願望の根底にあるもの
- 5-2 今や診療内科をにぎわす自分探しの旅人達
- 5-3 こんなところにもいる自分探しの人々

第6章 これだけは知っておきたい演劇の基礎・基本(1)

演劇・映画・テレビドラマの相違

- 6-1 演劇
- 6-2 映画
- 6-3 映画とテレビドラマ

第7章 これだけは知っておきたい演劇の基礎・基本(2)

- 演劇教育における表現ワークショップの位置づけと劇指導のあらまし -

- 7-1 必要なワークショップの内容
 - 舞台用語(五十音順)
- 7-2 劇指導のあらまし
 - (1)演出とは
 - 演出という職業の成り立ち
 - (2)演劇教育の演出家
 - 常に問題意識を持つ人であれ
 - 上手に演ずることを目的としない演出
 - (3)演出の果たす役割と取り組み方
 - 扱うテーマ
 - 総合学習としての実践
 - 『全員参加の創造力』を引き出す

第8章 これだけは知っておきたい演劇の基礎・基本(3)

- 芝居創りに必要な稽古の手順 -

- 8-1 戯曲について
 - (1) 脚本
 - (2) ト書き
- 8-2 俳優について
- 8-3 稽古について
 - (1) 本読み
 - 形式段落
 - 意味段落
 - (2) 読み合わせ
 - パーツ分け
 - (3) 立ち稽古
 - (4) 総ざらい
 - (5) 舞台稽古
 - (6) ドレス・リハーサル/ゲネプロ

第9章 これだけは知っておきたい演劇の基礎・基本(4)

- 大道具・小道具・照明等についての概説 -

9-1 大道具

9-2 小道具

9-3 照明について

[1] 照明の基本

[2] 照明係りの主な仕事

[3] 照明に関する用語

[4] 舞台と幕の種類

緞帳

袖幕

引き割り幕

脇幕(サイド幕)

Horizont幕

第10章 『演劇教育論』の要点 福島 康が語る“子どもが伸びる劇指導”

10-1 芸術と教育の関係

教育技術としての演劇的手法

10-2 演出の仕事

要点1

要点2

要点3

10-3 演劇と教育

10-4 総合的芸術 - 集団的創造の仕事 -

10-6 脚本の選び方(小学校)

(1) テーマが明確で豊かな心を育てるもの

(2) 対立や葛藤がはっきりしているもの

(3) 人物の行動の線が一貫しているもの

[付 記] 演劇教育に奮闘した一教師の思い出話

< はみだし教師の芝居人生 >

(1) 赴任先の学校での思い出

(2) 私が関わった演劇

演劇活動の不自由さ

子ども達の反応

< 参考資料(取り組んだ表現活動の記録) >

エピソード

福島の演劇活動に関する写真

おわりに